

## 6 . 研修修了者からのメッセージ

### 『ルーキー達へ ~先輩からの願い~』

谷川牧場 新井 義典

第 17 期生 (平成 13 年 4 月修了)

平成 12 年 4 月、第 17 期生として B T C の育成調教技術者養成研修に入講しました。当時はまだ馬に対する意識も全然足りなく、他の同期生よりも何事も遅かった記憶があります。それでも辞めたいと思ったことはなく、むしろ少しずつだけれど、牧場で働くための術が身についていると実感できたのが楽しかったです。

なかでも、1 歳馬の騎乗馴致に携われたことは、自分にとって素晴らしい財産になりました。今までは馬に教えられていただけと知り、初めて馬をつくる技術と知識を習いました。騎乗馴致は今の自分にとってもやりがいです。馴致に関わる環境がある B T C の研修は素晴らしいと思います。

就職先は軽種馬育成調教場 ( B T C ) を利用する牧場が希望だったので、浦河のノーティホースジムという育成牧場でした。まだ若いスタッフが多く、入社当初から乗らせてもらうことができました。しかし、なかなか上手くは乗れず、落馬ばかりで骨折もしました。自分は技術があるとは思ってはいませんが、仕事に慣れてくるとやはりどこかに油断があったのでしょうか。気の緩みから馬も人間も危険な目に合うのだと知ることができました。

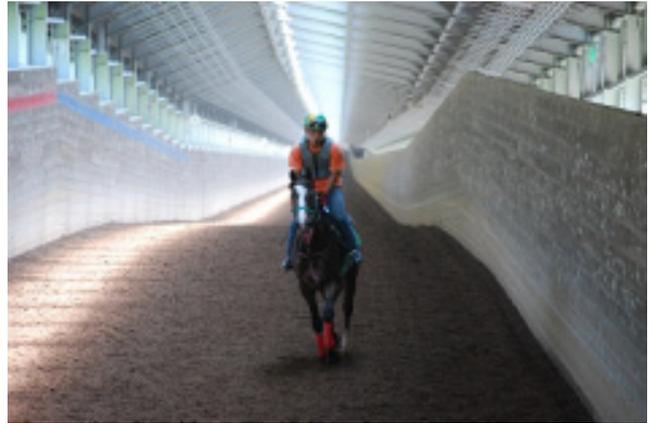
5 年間働いた後、諸事情により辞めなくてはいけなくなり、現在の谷川牧場に再就職しました。以前から生産・育成を一貫してやっていること、社会保険などがしっかりしたところで働きたいと思っていたからです。前牧場ではある程度仕事を任されていたが、この牧場ではまだまだ下っ端で勉強させられることばかりでした。特に、騎乗に関しては今までの考えは甘く、乗り方もしっかり脚を使えていない、重心が前過ぎるなど、沢山のことを教えてもらえました。自分の価値観など小さく、柔軟な考えが必要なのだと思うことが出来ました。

そんな私も、最近、多少は仕事を認めてもらえるようになり、沢山のやりがいを感じて働いています。なかなか思うようにはいかないことが多々ありますが、この働きやすい環境と素晴らしい上司・同僚と日々相談しながら、立派な競走馬に育てていけるよう努力しています。



私が考えている、今、現場に必要なこと。それは知識や技術やセンスなどだけではなく、それよりも率先して自ら動くヤル気、周りの人に気を配れる協調性、そして自分に厳しく努力を怠らない

ことではないかと思います。そんな考えをこれからの長い人生に少しでも役立ててもらえれば幸いです。いつまでも目標をもって、研修に精進して下さい。



## 『夢の実現に向けて』

笹島 智則

第27期生（平成22年4月修了）

競馬を知るきっかけは、テレビゲームの「ダビスタ」でした。競馬を知ってからテレビで競馬中継を観るようになり、競馬場にも足を運ぶようにもなりました。目の前で疾走するサラブレッドに興奮し、最後の直線に差し掛かると心臓の高鳴りが収まらなかったあの感動を今でも忘れられません。そして単純な私は「北海道で牧場をやって生活する」という夢を抱いてしまったのです。しかし、冷静に考えると一体どれくらいの資金が必要なのか見当もつきませんでしたし、何も知らなかったからこそ、とにかく莫大な資金が無いと不可能だと考えていました。それから学生・会社員として、それなりに楽しい生活をしていましたが、25歳になった時、ふと「牧場をやるのでは」と再び考えるようになったのです。そこで、まずは牧場で働いてみようと思い、求人情報を探し、競馬雑誌で(有)富田牧場（現在は育成も手がけるが、当時は生産のみ）の募集記事を見つけて牧場を訪問しました。牧場に数日滞在して「ここだ！この生活だ！」と感じ、翌年から働かせていただくことになりました。

26歳を目前に(有)富田牧場に入社した私ですが、それまでは馬に乗ったことも触れた経験もありませんでした。社長をはじめ先輩方に基礎から教えていただき、寝藁上げや馬を曳くことを覚えていきました。生産牧場の仕事を経験するにつれ「将来牧場をやる」と考えると、生産の次のステージである「育成」の分野についても経験しておきたいと考えるようになりました。牧場で働き2年が過ぎた頃、BTCによる育成調教技術者養成研修の応募年齢の上限が25歳から30歳に引き上げられることを知り、合格出来たら1年間チャレンジしてみようと受験しました。それから減量、受験、研修、卒業と無事(?)に1年間の研修を終えた時には29歳。最初は特に肉体的に堪えましたが、今私が牧場を始めようと思えるのも、この研修で育成という仕事に関わりを持つきっかけを得たことが大きかったと思います。

BTCの研修を卒業した後は、(有)ビッグレッドファームに就職しました。ビッグレッドファーム時代には、育成・調教はもちろんのことですが、それ以外の業務も充実していました。ハロー掛けや

重機の運転、坂路馬場の改修工事、ペンキ塗り、チェーンソーを使っての木の伐採等、牧場に関わる仕事を何でも経験させてもらえる環境であり、毎日があっという間に過ぎていった気がします。ビッグレッドファームを是非一度見学してみてください。とにかく美しい牧場です。朝起きて部屋のカーテンを開けた時の景色の素晴らしさ、気持ち良さはこの牧場で働く者の特権だと思います。

牧場の仕事は、とにかく冬は寒い、気性の激しい馬は怖いし危険、馬乗りは難しい。でも楽しい。決して楽な仕事ではありませんが、きつい・しんどい仕事だとも思いません。働いていれば筋力もつきますし、寒ければ着込めば良いし。私はこの業界をあえて他の仕事とそこまで区別しなくても良いのかなと思います。どのような業界で働いても、人とのコミュニケーション、信頼関係が大切なのだと思います。私がビッグレッドファーム明和への就職が内定した頃、場長に「一緒に働くことを楽しみにしています」と言っていたいただきました。この一言で明和に行くことが私自身も楽しみになりましたし、このような言葉をさらりと言える人間になれるよう心がけていかなければいけないと感じました。

これから1頭の繁殖牝馬と共に牧場生活を始め、日中は以前からお世話になっている(有)富田牧場で騎乗スタッフとしてお手伝いさせていただきます。今後どうなるかは分かりませんが、「北海道で牧場をやる」と考えていたことに近づける喜びは大きなものです。生産馬が1つ勝つことが当面の目標になりますが、今はこの新たな牧場生活をスタートさせてもらえる環境に感謝して1日1日を過ごしています。



## 『考える』

チェスナットファーム 西岡 篤史

第28期生（平成23年4月修了）

育成調教技術者養成研修を終えて約1年が経ちました。私は、小学6年の頃からテレビで放送されていた競馬に興味を持ち、競走馬に携わる仕事がしたいと思いましたが、競走馬に触れられる環境がなく、北海道にあるBTCでの研修を受けることに決めました。

1年間の研修では、日々の騎乗訓練や学科により、育成調教技術者としてのノウハウを習得することに加え、多くの牧場・競馬場見学など、研修生でしか体験できないような大変貴重な時間を過ごすことができました。研修でお世話になった教官をはじめ、BTC関係者、JRA職員の方々、そして広大な訓練施設、この恵まれた環境があったからこそ充実した研修になったと思います。

研修終了後、私はアイルランド研修に参加させていただきました。言語も違えば文化も違う異国の地で、目にする物全てがとても新鮮に感じました。日本に居た時は、競走馬育成はこういうものだと思っていた部分があったので、アイルランドの気候や調教施設などの環境に合わせた育成に衝撃を受けました。馬乗りが上達すること以外にも、たくさんの物事を体験することができ、「強い馬作り」という同じ目標でも、日本とアイルランドの考え方の違いを知っていくことがとても楽しく、大切なことだと思いました。

帰国後は浦河のチェスナットファームに就労することとなり、今日までに1年が経過しています。その中で私が一番大切だと思っているのは、「考える」ことです。日々同じことの繰り返しが続く競走馬の育成を、毎日淡々と働くことも悪くないと思います。だけど、「1つでも多く勝たせたい」、「1つでも良い着順をとってほしい」、それを可能にさせるためには、日々の繰り返しの中でも「考える」ことが大切であり、これによって人も馬も大きく変わっていけると思いました。私は調教時、誰が騎乗してもコントロールしやすい口元、常に最大限の力を発揮することができる馬体の柔軟性、四肢の可動域などを意識しています。もちろん、それらを完璧にできる騎乗技術は持っていませんが、考えて騎乗することが重要だと教えてくださったのは牧場の先輩でした。チェスナットファームには、馬術で国体優勝経験者、海外留学経験者、元乗馬インストラクターなど、経験豊かな先輩方が、常に私の騎乗についてアドバイスを与えてくれます。BTCの研修で1年しか騎乗経験がなかった私にとっては、そのアドバイスがとても励みになり、日々の課題をクリアするという目標を持って充実した日々を送ることができています。

まだまだスタートラインを切ったばかりですが、せっかく好きなことを仕事にできたので、これからも上を目指して頑張っていくと共に、ここまで私を後押ししてくれた家族、教官、牧場の皆さんに感謝し、日々成長していけるように努力していきたいです。

